

## 帰朝講演

### 第4回カロリンスカ大学院課程

#### —臨床高気圧酸素治療—

合志清隆

産業医科大学高気圧治療部・脳神経外科

カロリンスカ大学病院の麻酔科・集中治療部にICUの機能を有する大型の高気圧酸素(HBO)治療装置が新設されたことを受けて、同大学院セミナーが本年4月末に開催された。この会に参加する機会があったので、その内容の詳細は本誌(41:101-105, 2006)に紹介させていただいた。今回のセミナーの主題は、救急・集中治療領域におけるEBMの確立であった。一つは重症感染症であり、近年の糖尿病などの代謝性疾患の増加に加えて薬剤耐性菌の蔓延により、手術後を含めた創傷は難治性ないし重症化している。しかし、創傷や軟部組織感染巣などでは、抗菌剤にHBO治療を併用することで良好な治療結果が紹介されていた。救急・集中治療を要する疾患においても二重盲検試験の遂行が迫られつつあり、各国の専門医の協調によって高い水準のエビデンスを出すことが提案された。もう一つはガン治療であり、従来から放射線障害に対してHBO治療が行われてきたが、今回のセミナーでも主に膀胱や下顎骨での良好な治療結果が報告されていた。また、放射線とHBO治療との併用療法の有効性はほぼ確立され、すでにドイツでは政府が支払いを保障する適応疾患の一つになっていた。各国のHBO治療の状況を見ると、重症ないし難治性の外傷あるいは細菌感染症に対する集中治療の一つとして用いられている。しかし、本邦での主な対象疾患は、脳卒中を中心とした神経救急、あるいは突発性難聴や骨髄炎等であり、さほど集中治療管理を要しない治療例が多いように見受けられる。また、本邦から放射線治療あるいは化学療法とのHBO併用療法、さらに放射線障害の治療や予防について紹介した。このような臨床研究における最重要課題は、各種疾患における国際的な多施設共同の二重盲検試験であり、わが国の積極的な参加が望まれている。

## 特別講演

### HBO:その適応疾患のこれからの展望

眞野喜洋

東京医科歯科大学大学院健康教育学・

医学部附属病院高気圧治療部教授

HBOTに対する保険報酬は適性で正当な診療報酬になっていない。この立場で現状を是正するためには適応疾患に対して正当なevidenceを付けて査定し直す必要があるであろう。更に安全で適性な診療情報を全てのHBOT施設に迅速確実に提供することが重要であり、全ての適応患者の安全な治療が確実に提供されるためには全てのHBOT施設を有する医療施設が学会に登録され、関係する全ての技師、医師、管理医(専門医)へ安全に関する情報が確実に伝達されなければならない。そのような組織改編を迅速に進めることがこの命題解決の第1歩であり本学会が敢えて法人化に踏み切った最大の理由である。

現行の診療報酬体系では真面目に取り組むほど採算が合わなくなる矛盾を多く含んでいる。救急と非救急疾患の格差、HBO治療時間の相違への配慮、第1種と2種における維持管理費の差等、改善すべき点が多い。特に学会未加入で技師の教育もしていない診療機関からの保険請求の中には第1種による動力としての酸素代金を酸素消費量加算点として膨大な請求をしているところもあるやに聞く。そのような問題点から学会登録医療機関、技師、専門医の3点セットの整っている優良医療機関からの診療報酬とそうでない未加入医療機関からの診療報酬には当然保険点数に格差をつけるべきで実際、他の疾患においてはその前例も認められている。技術と安全を売り物にしているHBOTであるから当たり前とも言えよう。

HBOに伴う研究領域は裾野が広くHBOTに限らず基礎研究から応用研究まで今日のより良い医療への貢献の種は無尽蔵ではないかと思われる。

本日は救急と非救急疾患の格差等で代表される現行の診療報酬制度の矛盾をどのように学会が改善して将来的展望を切り開こうと希望しているのか、また高気圧・潜水医学から派生したとも言えるbio研究の一端を紹介することで、若き研究者の意識を高揚させることに少しでも貢献出来れば幸甚である。